



Nishikan

西蒲区

P219-P241

新潟市民
文化遺産
ガイドブック

みねやまはんし

三根山藩址

西蒲区峰岡78-3

江戸時代に240年存続した三根山藩は戊辰戦争で敗れ飢餓状態にあった本家長岡藩へ積年の恩に報いるべく、救援米100俵を届けました。長岡藩では、その米で学校を作り人を育て、後世に多くの偉人を輩出しました。

三根山の「恩に報いる」と長岡の「今を耐え将来の為に人を育てる」という2つの故事は今に伝えられ、地域の活動や教育に活かされています。(米百俵の心)



推薦団体 峰岡地区コミュニティ協議会

みねやまじんじゃ

三根山神社

西蒲区峰岡125

江戸時代に240年続いた三根山藩の守護神社で、当時は一帯が水海状態で恒常的に水害が発生し心の拠り所として崇められていました。また、古くから春祭に奉納神楽舞が行われ、最後に大黒様により住民が奉納したお菓子投げが大々的に行われ、子ども達が大勢集まります。



まつやましんでんひ

松山新田碑

西蒲区松山1322

碑文内容にあるように、当時の住民30名が県知事を訪れ、松山の開懇談を碑に残して欲しいという請願に応じて造られたもので、歴史的価値があります。



やまがごへいおうけんしょうひ

山賀五平翁顕彰碑

西蒲区松野尾3270-1 (若宮神社境内)

「五平の松尾野か松尾野の五平か」と言われ、村民の重要な人物の顕彰碑。当時の村民が建立したもので、氏の徳を偲び、後世に語り継いでいます。



西蒲区



推薦団体 松野尾地域コミュニティ協議会

なかさいいせきしゅつどひん（いっかつ）

中才遺跡出土品（一括）

西蒲区曾根1951（西川地区公民館）

昭和37年（1962）3月、水田区画整理に伴う暗渠排水工事で須恵器などの遺物が地下50cmから発見されました。横瓮などの土器は平安時代と推定されています。越後平野低湿地帯で発見された遺跡で横瓮は、昭和52年（1977）に町の文化財に指定され、平成17年（2005）新潟市との合併で市の指定文化財に継承されました。



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

よろいはちまんぐう

鎧八幡宮

西蒲区押付2938

西川地区に3社ある八幡宮の1つ。創立は不詳ですが、奥州安部一族の乱に対して、天皇の命による鎮圧のために源氏の諸将が鎧を奉納して戦勝を祈願した古い杜の跡であることが伝承されています。「鎧」という名称が、鎧潟・鎧郷(地区名)などとして残っていることも、今後の更なる調査内容として興味深いものです。



西蒲区



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

たなかじょうあと

田中城跡【大関城】

西蒲区升潟2179 ほか(升潟小学校・西念寺一带)

越後善光寺の縁起に記載されている大関阿波守盛憲の館城跡で上杉景勝による新発田重家攻め(1573年)の出城でした。県の調査で升潟小学校敷地内に内郭の存在は判明しています。

この地帯は潟、沼などの湿地帯のため、高台に館(城)を築きました。平成2年(1990)、この地方一帯を支配した大関氏の田中城跡の史跡、伝説跡地に説明看板を設置。同14年(2002)大関氏の子孫が地元の協力で「大関城の碑」を建て、保存・継承しています。



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

きゅうてんじくどうむらわりちのくじぼこいっこ・くじぼうにじゅうさんぼん

旧天竺堂村割地の籤箱1個・籤棒23本

西蒲区曾根1951(西川地区公民館)

西川地域は低湿地で水害に差があり、農民は被害を均等に分け合うように割地制度が定められていました。籤(くじ)で所持地を決め、一定の年数ごとに再び籤で割換えが行われました。

旧天竺村の籤箱と籤棒は割地制度を伝えるものとして歴史的な価値があり、町の遺産として登録されています。



西蒲区



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

くわやますわしゃのてんじょうが

桑山諏訪社の天井画

西蒲区桑山282

池田満寿夫氏の筆による「舞鶴」16枚の組絵は、西川地域が農業(稲作)中心であることから、天の恵み、自然の恩恵を地(人々)に与えるプロセスを絵にしたものです。天井画には、天と地を結ぶものとして、太陽を背にして舞う5羽の鶴がとても鮮やかに描かれています。

<開催時期> 公開日:4月20日



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

えちごぜんこうじによらいぞう・さんそんぞう

越後善光寺如来堂・三尊像

西蒲区善光寺42

木造平屋建入母屋造銅板葺、全体が檜造りで装飾が多く、唐様の影響を受けた豪華さが目立つ建築物です。仏像は本尊として安置されている善光寺式阿弥陀如来三尊像。信仰の霊場として地域と密接に結びついています。

<開催時期> 御開帳:8月16日



西蒲区

推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

そねだいかんしょあとのかしのき

曾根代官所跡地の榎の木

西蒲区曾根750(曾根小学校敷地内)

長岡藩6ヶ国組の1つ、曾根組が設置され、承応3年(1654)ころには組支配の代官所(正式名称は長岡藩曾根組用本蔵)が設けられました。曾根代官所は約250年間続き、50余りの村を総括しました。代官所に関わるものは一切無く、その敷地内に植えられた榎の木が現有する唯一の記念物です。



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

小澤精庵碑・新保正與碑

西蒲区曾根6番地子(曾根神社境内)

小澤新兵衛は号を精庵といい、元小田原藩士です。若くして藩を辞し諸国を遊歴しましたが、天保4年(1833)37歳の時、越後に来ました。天保8年(1837)曾根村見帯に移り住み、謙侍書院困学塾を開き、29年間多くの師弟の教育に尽くしました。困学塾からは新保正與をはじめ、多くの人材を輩出しました。

曾根神社境内にある精庵書の「聡明正直」の碑文は、嘉永3年(1850)師弟が顕彰のため建立したものです。

新保正與は、天保3年(1832)曾根の朝妻家に生まれ、小澤精庵に学び、江戸留学後曾根に戻り新保塾を引き継ぎます。

新保塾では中庭に天神様を奉り、天神様を大切にして、学問を教えました。新保塾は曾根小学校の元になります。

大国漢学者、優れた教育者であり、曾根近郷や大教授として教えた峰岡藩からも多くの人材を輩出しました。曾根小学校初代校長。後に新潟師範教諭となり本県教育に尽力しました。曾根神社境内に遺徳を称える建徳碑と碑文があります。



小澤精庵の碑



新保正與遺徳の碑



えちごかさぼこ

越後傘ぼこ【11基】

西蒲区曾根地区自治会



傘ぼことは、神様の依り代、即ち神を迎えて祭る時神が宿る木、石となるもので、傘ぼこ行列は曾根神社の秋の例大祭の神幸行列として行われ、曾根神社から琴平神社まで練り歩きます。

曾根代官所があった江戸時代に、地主や庄屋等が家運の繁栄を祈ると共に、豊かさの保持を供養したのが始まりといわれており、約180年の歴史を持ちます。

平成26年(2014)には「越後にしかわ傘ぼこ伝承会」が設立され、傘ぼこの伝承及び保存を行っています。

<開催時期> 西川まつり

(8月下旬の土・日曜日)に参加

※傘ぼこは各自治会の倉庫もしくは自治会長宅に保管されています。



推薦団体 西川地域コミュニティ協議会

たほうざんさんちょうちよっかのぶなのたいぼく

多宝山山頂直下のブナの大木

西蒲区石瀬水無し沢

石瀬集落には、このブナの大木にまつわる伝承が残されています。

元禄時代に石瀬に移住してきた鈴木角左衛門家の人々が、大きなブナの木を見つけ伐木をするために、マサカリで根元を切り始めたら、どこからか天狗が現れ、「かー、かー、角左衛門、この木を切らなくてくれ!」と頼まれました。角左衛門は天狗の頼みを聞き入れ、切らずに家に戻って村人にあのブナの木には天狗が住んでいると話し、村人もブナの木を大切に見守ってきました。

現在では付近一帯にブナの林が広がり、弥彦山、多宝山への登山者を癒してくれています。ブナの大木は、新潟市の文化財になっています。



いわむろどんざか あみだによらいざぞう

岩室ドン坂 阿弥陀如来坐像

西蒲区岩室温泉666

この阿弥陀様には、土の中から掘り出されたという伝承が残されています。

牛馬の背や人が荷物を運んだ時代にドン坂の決まった所で、牛や馬が異常なそぶりをするので、村人が不思議に思い、その場所を掘ったところ、首のない仏像が埋まっておりました。村人たちは、御堂を造り仏像の首を作り祀っていましたが、いつのまにか、阿弥陀様はドン坂の地から姿を消し、松岳寺の位牌堂の棚の中にひっそりと祀られてきました。

平成13年(2001)4月と18年(2006)5月に片岡氏、水野氏により鑑定を受けた結果、仏像が制作された時代は、両氏とも鎌倉時代の後期から南北朝時代でした。首からは江戸時代に入ってからのものでした。

阿弥陀様は、岩室村時代に村の文化財として指定されていたので、新潟市との合併後も市の文化財です。

阿弥陀様を多くの方から見てもらおうと、平成24年(2012)から25年(2013)にかけて修理をし、25年(2013)8月に中心部の小鍛冶屋の仏間に祀られています。



かめだほうさいのきょうざんふくんぼけつめい

亀田鵬斎の喬山府君墓碣名

西蒲区石瀬3356(種月寺上菩提)

亀田鵬斎は、文化6年(1809)から8年(1811)にかけて、越後の国を旅していました。文化8年(1811)の2月に石瀬の地を訪れ、当時の石瀬代官所に勤めていた岩田耒(らい)に頼まれ、父の岩田富右衛門を称えた碑文を残しています。

石瀬に幕府の代官所が置かれていたことが古文書以外でも確認された貴重な碑文です。



かいきゅうさいじき【にさつ】

懐旧歳事記【2冊】

西蒲区巻甲2224(巻神社社務所)

本書は、幕末長岡の風俗年中行事を述べたものですが、長岡藩及び牧野家に言及するところも少なくありません。序文によれば、著者は三十石曾根組代官で小川当知、名は善右工門(長岡藩士)です。記述は精緻をきわめ、随所に著者の実見実写による克明な押絵図を挿入して資料的価値を高めています。

久我家の伝来として、長岡で入手したものといわれています。本書(久我本)のほかに同一人が描いた故反町茂雄氏所蔵の反町本があるといえます。本書は旧巻町の伝えられた貴本であり、民俗学及び長岡藩資料として重要です。

久我家によって「長岡場の面影」なる題箋(だいせん)が付されています。

※引用文献:
「巻町の文化財【第三集】」
<閲覧不可>



推薦団体 巻地区まちづくり協議会

けんぽんちゃくしょくふどうみょうおうにどうじぞう

絹本著色不動明王二童子像

西蒲区巻甲2224 (巻神社社務所)

不動明王は、真言密教において教主大日如来(だいにちによらい)の変身仏として最も広く信仰されています。巻神社神官久我家は、元修験(しゅげん)であり北国文殊院慶山正徳寺と号した寺院でした。

本像は、その際、修験者の信仰の対象となったものと推測されます。

中央雲上に迦桜羅炎(かるらえん)を背負い、首に連珠の瓔珞(えいらく=首飾り)を掛け、右手に利剣、左手に羂索(けんさく)を持った不動明王が安座し、その下部左右に矜迦羅(こんから)・制多迦(せいたら)両童子が対座しています。不動明王は、両眼を開き半開した口から左右に利牙(りか)をのぞかせ、比較的柔和な相です。絵画全般は、迦桜羅炎、衣装の文様等において形式化がうかがわれますが、2童子及び明王の条帛(じょうはく)・裳(も)の写実的な点、さらに金泥を混ぜた黄色絵の具で描かれた肉身から見て室町時代の作です。表装は極めて良好で、補修、捕色は認められません。



※引用文献:「巻町の文化財【第三集】」
<閲覧不可>

ほたるのかひ

蛍の歌碑

西蒲区福井矢垂川縁辺

平成2年(1990)7月、良寛研究の権威であり、中国文学の大家、渡辺秀英先生(新潟市西区)が蛍見物においでになり、乱舞する蛍と山紫水明のすばらしさを感じて、即興で漢詞に詠まれた歌を、福井観光協会が翌3年初夏に芳志を募って建てました。

隣接する良寛歌碑と共に堤防の道を整備して遊歩道とすることが検討されています。



推薦団体 福井自治会

やだればしのりょうかんかひ

矢垂橋の良寛歌碑

西蒲区福井641-3

昭和30年代に行われた耕地整理で矢垂橋が無くなるに際して、村の青年達が記念に建立した碑です。

碑面には「福井なる矢垂の橋へ来てみれば雨は降れども日は照れども」と刻まれています。

托鉢や知人との交流にここを歩き来した良寛さんが矢垂橋での感懐を詠ったものと言われています。「福井はいつ来ても良いところだなあ・・・と」

書は分水町の原田勘平先生です。



推薦団体 福井自治会

ふくいきゅうしょうやさとうけ

福井旧庄屋佐藤家

西蒲区福井1908

福井の佐藤家は江戸時代後期に建築され、三根山藩の庄屋としての役宅が、昔のままに残されている貴重な茅葺き民家です。また庭にはタブノキやヒバなどの巨木があり歴史を感じさせます。

この茅葺き民家は地域の貴重な歴史文化財であり、保存・活用で地域の活性化につなげようと、平成17年(2005)に「福井旧庄屋佐藤家保存会」が結成されました。

保存会は、萱屋根の葺き替えなどの保存・修復とともに古い日本家屋の雰囲気に対応しい文化芸術公演や子どもの正月行事などを開催しています。また気軽に利用できる会場として市民団体の文化芸術活動や公共団体などから利用されています。



推薦団体 特定非営利活動法人 福井旧庄屋佐藤家保存会

和納大祭

西蒲区和納 三社神社

和納大祭の夜、三社神社の境内で行う和納花火師による自前製作の仕掛花火は県内外の方々にぜひ一度見てもらいたい祭りの1ページです。やけどをしてもやめられない花火師が何人もいるという花火は圧巻です。

仕掛花火にめずらしい伴奏の囃子が拍子方により演奏されます(笛、太鼓、ほら貝)。

このお囃子には伝説があります。昔、二人の浪人が流れつき、村の楞厳寺(りょうごんじ)に身を寄せ和尚の弟子になりました。この浪人が夜な夜な笛を吹いていました。この調べが今の素晴らしい調べで身の上を尋ねたところ、元は平家の武士だと打ち明けたそうです。この調べが今の祭りに伝わっています。

仕掛花火とこの優雅な調べが和納大祭を盛り上げます。

<開催日時> 8月第1日曜日(概ね20:00~21:30)



